

「和歌山の食から保育の展開を考える」

～栽培活動の保育的な手法と狙いについて

社会福祉法人友愛福祉会 おおわだ保育園 理事長

内閣府 子ども子育て本部 上席調査員

馬場耕一郎

保育士の社会的な役割

「エッセンシャル(Essential)」は、日本語では「本質的な」「不可欠な」などと訳されます。「エッセンシャルワーカー」では、「必要不可欠な労働者」の意味になり、私たちが日常生活を維持するために無くてはならない職業に就いている人たちを指しています。

エッセンシャルワーカー

●医療福祉

医師／看護師／薬剤師／介護士

●行政

市役所、区役所職員

●運輸物流

交通局職員／JR職員／バスドライバー／トラックドライバー
／宅配スタッフ／倉庫内作業

●公共インフラ

水道局職員／電力会社職員／通信会社職員

●一次産業

農家／漁師／酪農畜産

●保安

警察官／消防士

●流通

コンビニ店員／スーパー店員
／ドラッグストア店員

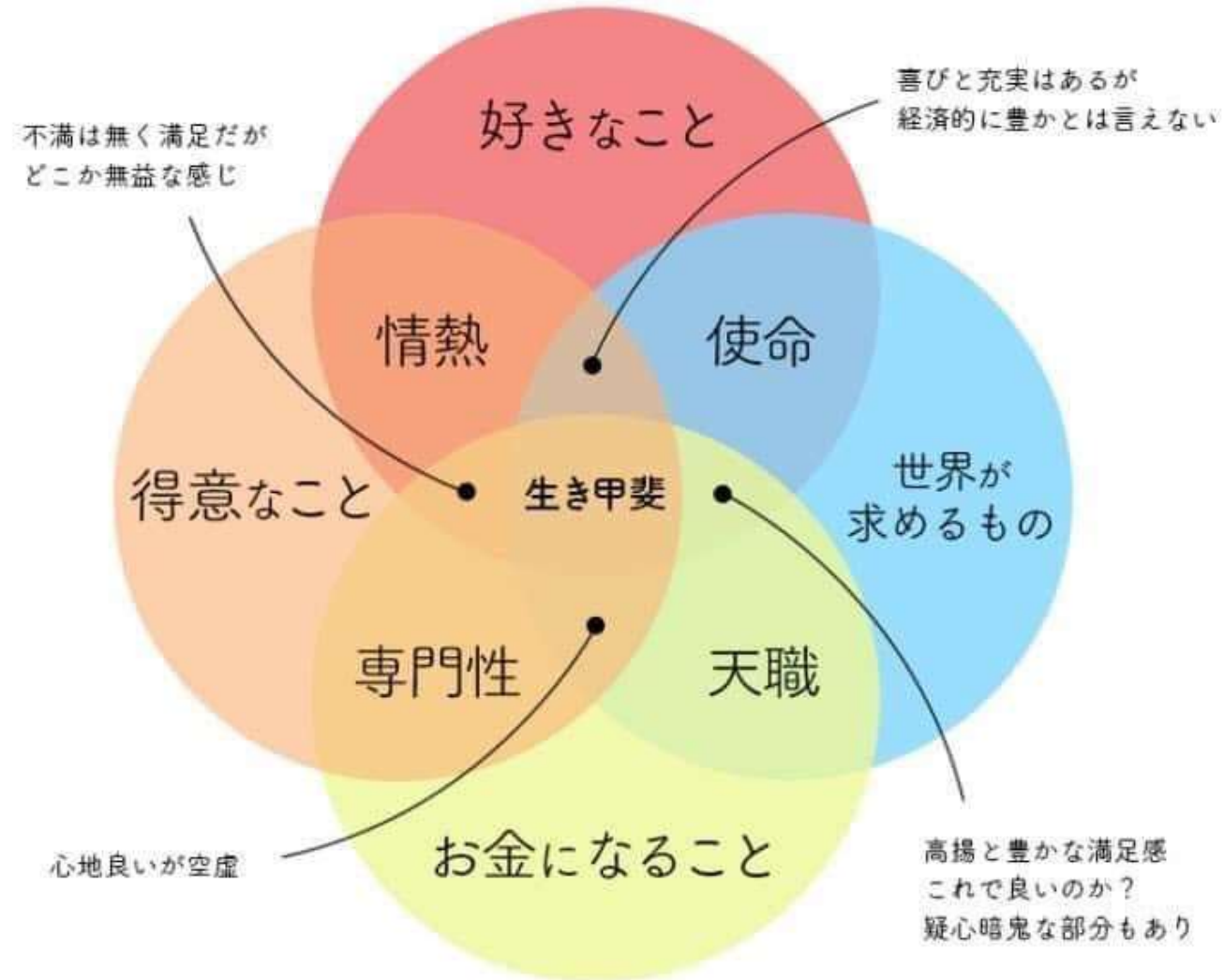
●製造業

食品製造業／
日用品製造業

●保育

保育士

生き甲斐の図



社会的な背景

地域コミュニティの崩壊、家庭における食環境の衰退等により、地域の名産品や旬の食材が食卓に提供される機会が減少している。

今後は保育施設において、食文化の伝承を担うことにより、地域力を維持することが期待される。

保育所保育指針 環境領域

日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。

和歌山市には



今までの保育の前提は

これからの時代は

子どもの育ちと子育てを
社会全体で支える

保育所・保育士に求められること

質の高い保育の提供

コロナ渦で

地方移住へ関心高く 大阪で相談4割増、和歌山など人気

新型コロナウイルスの影響で、大阪府を中心に関西でも地方移住への関心が高まっている。大阪ふるさと暮らし情報センター（大阪市中央区）の面談による相談件数は6～7月で224件と前年同期比で約4割増えた。大阪に出やすい地域の人気が目立つ。地方の自治体は、オンラインも活用しながら移住希望者の要望に合わせてたり、就職相談と組み合わせたりと工夫をこらす。

2020.8.24 日本経済新聞

人口減少時代に対して

•子育てしやすい街

- 地域としての保育が問われる時代
- 単独で頑張っても限界がある
- 地域として保育の質向上に取り組む

共通のテーマを用いることの効果

- 相談相手がたくさんできる
- 共通理解ができる
- 良い取り組みの情報交換が活発になる
- 改善点を共有することで、PDCAサイクルの効率化を図る

→質の高い保育

地域・社会の注目が高まる
自己肯定感があがる

栽培にあたって

- たくさん写真を撮影してください
- 楽しんでください
- 一緒に美味しい大根・ブロッコリを食べましょう

袋栽培の効果

- ・全ての保育所・認定こども園で対応が可能
- ・子ども達が身近に感じる事ができる
- ・保育士の業務負担軽減